デジタル防災技術の徹底活用

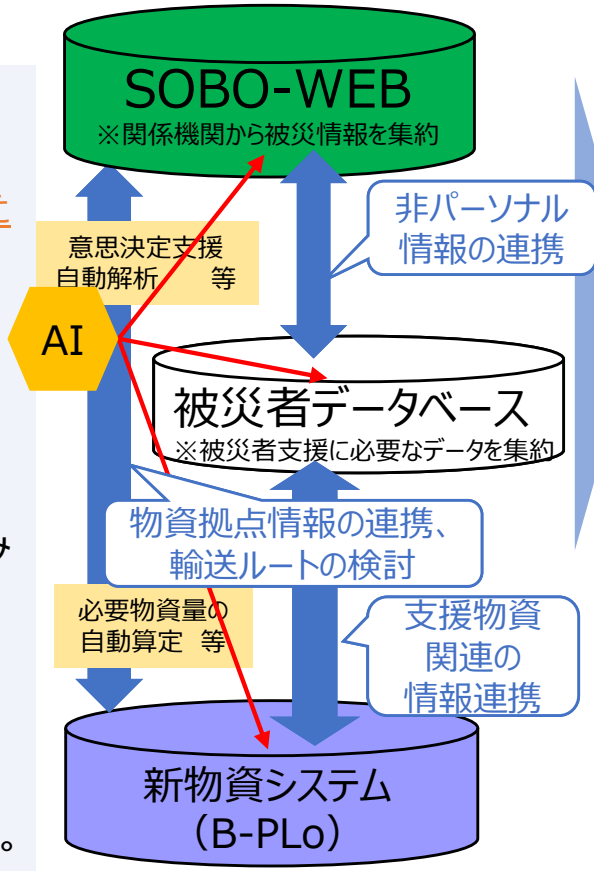
- 災害対応にあてられるリソースに限りがある中で、デジタル防災技術を活用し、災害対応の高度化・効率化を進めることは喫緊の課題。
- そのために、多様かつ膨大なデータを共通基盤に集約し有機的に連携させ、被害・支援ニーズの全体像を迅速に把握する体制を構築する。
- 加えて、情報の自動解析や意思決定支援等にAIを積極的に活用することで、被災者ひとり一人に寄り添った支援の実現を含む災害対応の高度化・効率化を目指す。

現状・課題

- 様々な機関・組織が持つデータの自動連携を進めているものの、被災情報の迅速な共有や提携元でのデータ更新がリアルタイムで反映されない等、円滑な情報連携の実現にはまだ道半ば。
- 災害対応業務にAIを活用する際の技術面・運用面での課題・論点整理等は十分に進んでいない。

施策の方向性

- 南海トラフ地震等の広域災害への対応を見据えた防災デジタルプラットフォームの強化に向け、その中核をなす新総合防災情報システム（SOBO-WEB）の全国共通的な運用の確立を通じた更なる利活用、AI等の先端技術を活用した機能拡張、各種プラットフォーム等を介した情報の一般公開に向けた対応等を行う。
- 被災者支援に必要となる様々な情報を、平時に収集済みの情報や発災後に収集する情報からスムーズにデータベースとして集約する観点から、被災者支援に必要な情報項目の標準化等について検討を進めるとともに、自治体間等で情報共有する仕組みについて検討する。
- 国及び地方公共団体等の災害対応をデジタルにより支援するため、SOBO-WEB等のシステムに精通した人材の育成を図るとともに、民間事業者等との連携・協力体制の構築も含め、被災した地域へのデジタル人材派遣に係る枠組みの整備等を推進する。



目指すべき姿

- AI等先端技術も活用した
  ①防災デジタルプラットフォームの機能強化による強靱な情報流通基盤の確立
  ②被災者一人ひとりの状況に応じた、モレ・ムラのない伴走的支援の実現
- 官民連携のデジタル人材派遣体制の整備等による、被災地の災害対応力の向上